

名 称	垂水市体験活動ボランティア活動支援センター
所 在 地	〒891-2125 鹿児島県垂水市旭町61-2
連 絡 先	TEL : 0994-32-0224 FAX : 0994-32-1525 URL : http://www.city.tarumizu.kagoshima.jp/

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 垂水市 18,500人

垂水市は、大隅半島の西北部、鹿児島湾に面するほぼ中央部に位置し、県都である鹿児島市と大隅地域とを結ぶ海上陸上の要衝都市としての役割を果たしながら発展してきた。

面積は、162.01平方km、海岸線は37kmに及んでいる。

自然豊かな錦江湾と、原生林が残る高隈山系の山の緑に恵まれた、風光明媚な自然の中「心あたたかい人々の住む、文化の香り高いまちづくり」を推進している。

しかしながら、近年は若年層を中心とする都市流失が多く、人口が減少し、過疎化現象に悩んでいるが、各地域の自治活動は大変活発であり、教育への関心も高く、地域の子どもたちは地域が育て、郷土を愛し郷土を誇りに思う青少年の育成に努めている。

事業の名称、活動概要

名称 垂水市ボランティア少年団

平成8年度から活動を初め今年で12年目を迎えた。毎年5月に結団式を行い、12月に解団式を行う。公共施設の清掃活動や高齢者とのスポーツ交流・各地区公民館での活動・ボランティア宿泊研修・保育、老人福祉施設での触れ合い交流・赤い羽根共同募金等年間10回の活動を実施している。

なお、今年度は104名の参加があった。

事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

垂水市内の小学校5年生から中・高校生が、異年齢集団の中で身近にある施設でのボランティア活動や地域行事の手伝いなどの体験を通して、地域や社会のことに関心を深め、

自分から進んで物事に取り組む姿勢や、人に対する思いやりの心を育てることを目的とする。

事業の内容

① 事前準備として行った取組（企画段階）

今年で12年目になる本活動は、学校・地区公民館関係の方々には活動内容等について十分な理解を得ている。事前準備としては、年度の当初に各関係機関へ依頼を行い、活動1ヶ月前に内容についての実施協議を行っている。

また、団員募集については新学期に各小・中・高校に募集要項を配布し、学校単位で申し込みを受け付けている。

なお、活動内容については毎年検討を行い、子どもたちのやる気が持続できるように工夫している。

② 活動の展開内容（活動段階）

安全を重視するため、活動内容により異なるが、3名から7名の職員を配置し指導監督を行っている。本事業が12年間続いていることから、当初小学生で参加した児童が、高校生になるころには、リーダーとなり下級生を指導できる仕組みが確立できており、団員間の統制は取れている。

- 市の行事である吹奏楽コンクールのため、会場の文化会館等の清掃を行っている。
- 宿泊研修と赤い羽根共同募金活動に関しては、垂水市社会福祉協議会との共催として活動を行っている。
- 市教育委員会社会教育課で行っている『高齢者リーダー学級』のみなさんとスポーツ交流活動を行っている。
- 各地区公民館で、その地区独自での活動に参加している（施設の清掃・文化財の清掃等）。
- 福祉施設での活動は、市内の介護老人保健施設・特別養護老人ホーム・地域グループホームの担当者の協力により、施設の見学や清掃活動・触れ合い活動を行っている。
- 市内6箇所の保育園・幼稚園での活動は、園の清掃活動や園児との触れ合い・運動会の準備の手伝い等を行っている。

③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

団員の安全面については、入団時に各団員から参加料1,000円を徴収し、その申込金によりボランティア保険に加入している。

概ね活動に関しては、毎年継続して行っていることもあり、特に問題はないが、新たな活動を実施する場合には、綿密な打ち合わせと団員への詳細説明が必要不可欠である。ま

た、いずれの施設でもそのニーズに合った活動を行うことが重要であり、受入れ先の都合等も十分理解し「させていただく」奉仕の気持ちが大切である。

事業の成果と今後の課題

成果として、異年齢の団員たちを10名程度の一つの班として共通の活動を行わせることにより、上級生にはリーダーシップを、下級生には集団における規律や上級生に対する尊敬の念を持ち、素直な気持ちで各活動を行っている。

また、10校以上の児童・生徒が集まって活動しているため、活動を通しての情報交換や交流を深めており、団員たちは明らかに視野が広がっている。

解団式は、活動の過半数に参加した団員を対象に開催したが、104名の8割に相当する84名が参加した。各団員に修了証を授与するが、その表情は達成感と充実感に満ちあふれた表情がとても印象的である。

しかし、課題もありここ数年は100名を越える参加希望者がおり、全員を受け入れられる施設に限られるため、ボランティア精神を持って応募してきた児童・生徒たちに対し、先着順や抽選で人数制限するのはできるだけ避けたい気持ちである。

施設により、「20名程度の受け入れならば、もっと決めの細かいボランティア活動を体験させることができる」と非常に協力的な提案をしてくださるところもある。

次年度からは、班ごとに小分けして複数の施設に団員を派遣しようと考えているが、その際に指導監督する立場の職員の絶対数が明らかに不足する。

今後はボランティア少年団の趣旨を理解・協力していただける市民の方々の募集を検討している。

また、この活動は、団員たちが学校とは違う学びの場としての意識を持ってもらいたいことから、募集の際を除き各活動に関しては学校の先生方への協力依頼は行っていないが、頑張っている子どもたちへの励まし等をお願いしている。



老人福祉施設で窓拭きをする団員



受け入れ施設の方から説明を受ける



宿泊研修で毛布を使った負傷者の運び方を学ぶ



神社の清掃作業



園児との交流活動



すべての活動をやり遂げた8名

執筆者職・氏名：垂水市教育委員会 社会教育課副主幹 堀田 徳隆

コーディネーターからの一言コメント

小中高校生が一つのボランティア集団となって活動しているのが大きな特徴である。参加希望者が多く、その自主性を生かすために市民の協力を検討したいとのこと、更に連携が広がることを期待したい。

(中根 惇子)